

注 意 事 項 解 説 B-11

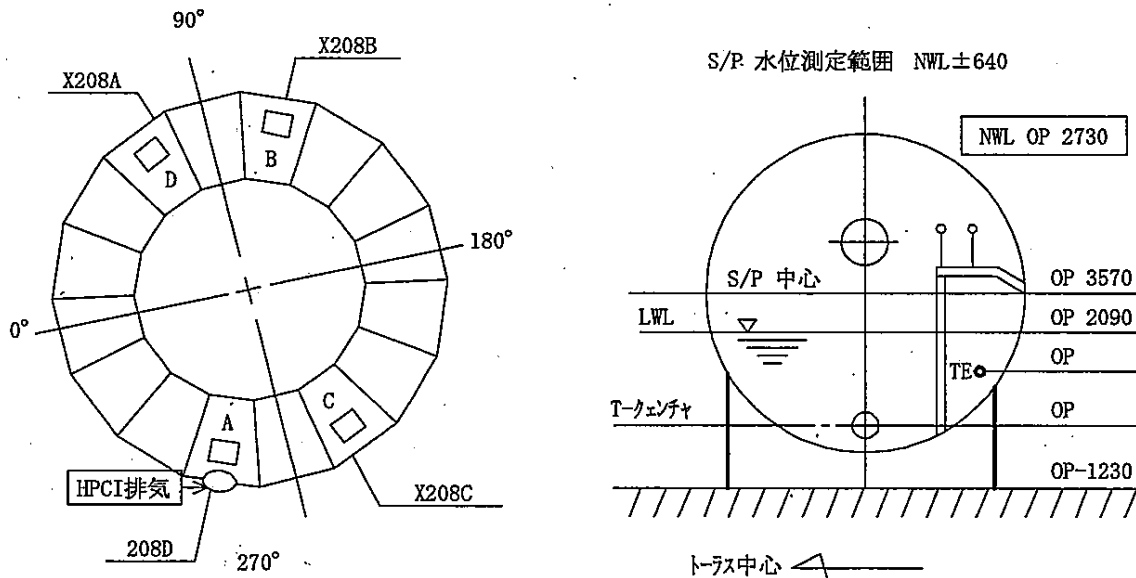
注意事項#11 SRVによる減圧を行う場合、可能ならS/Pの温度上昇を均一にするため、なるべく離れたSRVを順次開放すること。
 SRVの開弁は、冷却率を確認し間欠で行うこと。

解 説

S/Pの水温は、逃し弁作動中は局所温度を低温 (S/P熱容量制限値以下) に保つ必要がある。
 一つのSRVのみ用いて炉を減圧すると、その領域のみ水温が上昇するので、均一にS/P水が上昇するよう逃し弁はローテーションして開弁をする。
 SRVは1弁開弁状態だと、炉圧が高いときは55°C/hを超えるので、平均55°C/h以下になるよう間欠的な運転をする。また、炉圧が低いときで2弁以上用いるときは、それらの弁は間欠的な運転をし平均55°C/h以下になるようにする。

参考4 表1 1F-1 各SRVの設定圧力

弁 番 号	ADSの有無	排気管の位置 (度)	設 定 圧 力		吹出し容量 (t/h)
			逃がし弁機能 (MPa)	安全弁機能 (MPa)	
203-3A	有	292.5	7.27	7.64	263
203-3B	有	112.5	7.34	7.64	264
203-3C	有	247.5	7.34	7.71	264
203-3D	有	67.5	7.41	7.71	266
203-4A	—	D/W 吹き出し	—	8.51	290
203-4B	—	D/W 吹き出し	—	8.51	290
203-4C	—	D/W 吹き出し	—	8.62	293



参考4 図1 1F-1 各SRV吹出し位置及びTE X208A~X208D設置場所